

サンクトペテルブルク・フィルハーモニー交響楽団首席指揮者・芸術監督
ユーリ・テミルカーノフ氏への旭日中綬章の授与式が行われました

平成27年7月8日
在サンクトペテルブルク日本国総領事館



7月6日、サンクトペテルブルク・フィルハーモニー・大ホールにてサンクトペテルブルク・フィルハーモニー交響楽団首席指揮者・芸術監督ユーリ・テミルカーノフ氏への旭日中綬章の伝達式が行われました。大ホールのステージ上、フィルハーモニー交響楽団の団員が出席する中、山村総領事はテミルカーノフ氏の功績を称え、勲章を授与しました。これに対してテミルカーノフ氏は、日本は頻繁に訪れており、自分の愛する国であるところ、今般の勲章の受章は自分にとり特に重要であると述べました。

授与式に続いて行われた記者会見にてテミルカーノフ氏は、日本人の誠実さや、新しいものを柔軟に受け入れる姿勢に親近感を覚える。またかねてより日本人としての姿を保ち続けている点で、日本は特別な国であると考え旨述べました。テミルカーノフ氏が日本でどのように受け入れられているかとの質問に対しては、同氏は「素晴らしく受け入れられている」と答えました。

また山村総領事は記者会見にて、日本ではロシアのクラシック音楽は人気を博している。テミルカーノフ氏が来日する際には各訪問都市で尊敬の念とともに受け入れられていると述べました。

2011年、東日本大震災発生後、サンクトペテルブルク・フィルハーモニーの2つのオーケストラは当時の公演収入の一部を仙台フィルハーモニーの基金に義援金として送付しました。またその答礼として2013年に同フィルハーモニーがサンクトペテルブルクでコンサートを行った際、テミルカーノフ氏は会場としてフィルハーモニーの会場を提供しました。